

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 千葉県 】

1 実践テーマ	【 I・III・V 】					
2 実施対象者	学校名 : 千葉市立千城台西小学校 対象学年 : 5学年 クラス(人数): 1組(22人) 2組(21人)					
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 体育科・保健体育科 ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )					
4 目標 (ねらい)	モデル校での実践等を通して、体育・保健体育の学習を充実させ、子供たちが、よりスポーツを好きになり、生涯にわたって運動に親しむ資質を育むこと、健康の保持増進のための実戦力の育成と体力の向上を図ることを目的とする。					
5 取組内容	○道すじ 5学年の体育「バスケットボールの」の学習後に、5時間追加して「車いすバスケットボール」に取り組んだ。					
		1	2	3	4	5
	0 ↓ 45	オリエンテーション ・学習内容を確認する。 ・ルールを確認する。 ・車いすの操作の仕方を 知る。	車いすに乗って 動いてみよう。	簡単なルールで車いすバスケットボールをやってみよう。		
	○手立て 【体育館】 1/2の大きさ 【ゴール】 セストボール用ゴール 【ボール】 スマイルバスケットボール 【ルール】 タイヤをこぐ回数・・・無制限 出場選手・・・コート内3人(車いすあり) 両サイドのウイングマン2人(車いすなし) 【感覚づくり】 ターン、ストップの動き、レイアップシュート					
6 主な成果	○本単元を通して、車いすに乗って運動をすることの難しさや大変さを知ることができた。また、実際にパラスポーツを経験したことで、					

	<p>他のパラスポーツにも関心をもつことができた。</p> <p>○単元後のアンケート結果で、オリンピックやパラリンピックの種目を観戦してみたいという子が増えた。</p> <p>○通常のバスケットボールに比べて、攻守のスピードは落ちるため、きちんとスペースを見つけてボールを受けたり、チームで狙った作戦が実行できたりとバスケットボールの学習をより深めることにつながった。</p> <p>○オリエンテーションの時間や2時間目の時間に、車いすの操作の仕方を確認し、鬼遊びなどを通して、子ども達はすぐに車いすの操作に慣れることができた。</p> <p>○コートに、若干の狭さは感じたものの、ウイングマンを採用したことで、コートの横幅をいっぱいに使った攻め方が見られ、だんご状態にならずに、スムーズなゲーム展開を多く見る事ができた。</p> <p>○セストボール用のゴールは、リングが大きいので、シュートが苦手な子でもゴールする楽しさを味わうことができた。また、実態に合わせてゴールの高さを変更できる点も、効果的であった。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<p>○スピーディーな攻め方ができるよう、両サイドにウイングマンを設置した。</p> <p>○どの子もシュートが入るよう、セストボール用にゴールを使用した。</p> <p>○ボールへの恐怖心を緩和し、その分車いす操作へ意識が持てるよう、軽くて柔らかいスマイルバスケットボールを使用した。</p> <p>○できるだけ、車いすやボール操作を容易にするために、ルールはシンプルにした。</p>
8主な課題等	<p>○体育館の1/2の大きさでは、若干の狭さを感じた。</p> <p>○車いすに乗れない子の運動量や活動内容は、検討する必要がある。</p> <p>○選手交代に時間がかかった。また、体格によって車いすを選ぶ必要のある子もいたため、その配慮が必要である。</p> <p>○季節的には冬季は寒く、車いすのリムが冷たいので単元として取り入れる時期は検討する必要がある。 (バスケットボールと抱き合わせるのなら、年間予定的には冬の時期になってしまう。)</p>
9来年度以降の実施予定	<p>○車いすが使用できるのであれば、継続して取り組んでいきたい。</p>
10 その他	<p>○車いすがないと実践できないため、現状では1年間ですべての学校が実践するのは難しい。また、今年度は、車いすを10台貸していただいたが、実践する上では12台必要になった。数の確保が課題である。</p> <p>○車いす1台がとても高価な物であり、学校での管理の仕方も検討の必要がある。</p>